

令和6年度 学力向上プラン

学校名 中央区立佃島小学校

学校の教育目標

- ・健康で 明るい子ども
- ・礼儀正しく 思いやりのある子ども
- ・よく考え すすんでものごとに取り組む子ども

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- 基本的な学習習慣及び生活習慣を確立する自律力
- 他者を尊重し、自分の意見や考えを伝えることができる表現力
- 知識・技能を活用し課題の発見と解決に取り組もうとする力

令和6年度「学習力サポートテスト」や令和5年度学力向上プランの検証結果等の分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4, 5, 6学年の国語科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。 ・第4, 5学年は特に「情報の扱い方に関する事項」の領域が目立って低い。 ・3学年とも、「文章を書く」において正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報と情報を関連付けたり活用したりする機会が少ない。 ・自分の考えや意見の中心となるものを明確にすることや、読み手を意識した文章表現や文字制限などの条件に合わせて文章を書く経験が少ない。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4, 5, 6学年の算数科全体の平均正答率は2~3%程度低い。 ・4年生では図形領域が区の平均より5%低い。6年生の内容別正答率では立体と体積の項目が3%以上、区の平均より低く、図形分野への課題が見て取れる。 ・観点別正答率の「知識・技能」の項目は学年が上がるにつれ、区の平均との差が、小さくなっていくが、「思考・判断・表現」の項目は差が縮まらない。 ・問いに正対した考え方を説明する際に既習事項を活用することに難しさを感じている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を求める公式を活用して課題に取り組むことが多いが、その公式が表す意味について表現する機会が少ない。 ・知識があり、計算は出来るが、知識を活用して問題を解いたり、計算の仕組みを理解したりする点に課題がある。 ・長さや重さ、広さを表す単位を理解していても、量感が身につけていない。 ・日常の経験と結び付けて考える問題が弱い。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4, 5, 6学年の社会科全体の平均正答率が区の平均よりも下回っている。 ・観点別に見ると「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む態度」が低い傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりする活動ができていない。 ・児童自身が問題意識をもって学習に取り組むことができていない。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和6年度学習力サポートテスト」において、第4, 5, 6学年の理科全体の平均正答率が区の平均よりもやや下回っている。 ・楽しんで取り組んだ実験が学習として定着するまでに時間がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験や経験はしていても、知識として身につけていない。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を書く力に個人差がある。(高学年) ・英語で表現する力に個人差がある。(高学年) ・学習に対する興味・関心の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テスト形式に慣れていない児童が多い点が考えられる。 ・表現することへの抵抗感が見られる。 ・日常生活で英語にふれる機会が少ない。

<p>体 育</p>	<p>・「令和6年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「50m走」・「長座体前屈」のポイントが低い傾向にある。加えて、学年が上がるにつれて、上体起こしのポイントが下がりやすい傾向が見られた。</p>	<p>・運動経験の差が運動技能の差につながっている。 ・授業内で、話し合い活動や、課題発見、解決をする授業展開を構成することが少ない。</p>
------------	---	---

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの情報を関連付けながら読み取ったりわかったことを表現したりする活動を取り入れる。 ・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、全実施学年で領域「書くこと」が、区の平均を上回るようにする。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> ・図形を求める公式が表す意味を理解し、表現する活動を意図的に設定する。 ・具体的な日常の経験と結び付けたり、身近なものを測定したりし、量感が身につくような活動を多く取り入れる。 ・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりすることができる。 ・児童自身が問題意識をもって、主体的に学習に取り組むことができるようにする。 ・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・サポートテストの結果、基礎的な事項の正答率が低いため、基礎事項の理解の定着をめざす。 ・理科支援員と連携して、予備実験を充実させる。 ・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、全実施学年で、区の平均との差を縮める。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習力サポートテスト(R7 4月実施)では、第6学年の「主体的に学習に取り組む態度」「思考・判断・表現」の正答率がさらに向上するようにする。
	体育	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和6年度運動能力、生活・運動習慣調査」において、測定種目別に見ると「上体起こし」・「50m走」・「長座体前屈」のポイントが参加校の平均を上回るようにする。
②授業改善	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して、「個別最適な学び」、「協働的な学び」の実現をめざしていく。 ・ユニバーサルデザインを取り入れ、個別に支援が必要な児童に適した授業改善を行う。 ・教科担任制のもと、教える教科に専念した教材研究を行い、質の高い教科指導を行っていく。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価教員アンケート「授業内容」に関する項目で肯定的評価の95%以上を目指す。 ・学校評価児童アンケート「授業内容」に関する項目において、肯定的評価の95%以上を目指す。 ・校内研究でのタブレット端末の効果的な使用方法の研究を通して、教員の授業におけるタブレット端末のICT機器活用力の向上を図る。 	
③家庭との連携	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学年便り及び各種アンケート等の配布物のデジタル化を行っていく。 ・月1回の学校公開を実施し、家庭、地域に本校の教育活動の理解を深めていく。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート「保護者との連携」の項目において、肯定的評価が90%以上を目指す。 	

④体力向上	<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自ら進んで体を動かし、運動に親しむことができるような取組を行う。 ・他者の動きのよさを感じ、実践することで、運動への楽しさを実感できるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価児童アンケート「体力向上」の項目において、肯定的評価が70%以上を目指す。
-------	--

【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して文を書く機会を設けて、書く力の育成に努める。 ・学級文庫や学校図書館を活用した読書活動を促進して、情報と情報との関係について理解し、要旨を捉えたり、要約したりする力が高まるようにする。 ・自分の考えをもたせる指導を充実させる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用し、自分の考えの根拠をはっきりさせて説明する機会を増やす。 ・学習した内容と日常生活の中にある数学的な事象が結びつくような工夫をする。 ・タブレット、ワイド等のICT機器や、ミライシード、スカイメニュー等のアプリを有効に活用し、児童の学習意欲を引き出し思考力・判断力・表現力を高める工夫をする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の資料から必要なものを選んだり、複数の資料を関連付けたりする活動を多く取り入れる。 ・児童自身が問題意識をもって学習に取り組めるよう、疑問点を見いだしたり、問題に対して予想したりして、主体的に学習に取り組めるようにする。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験を充実させるために理科支援員と提携して実験準備を進める。 ・日常生活と結びつけて、予想したり考察したりする力を更につけていく。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・内容に必然性をもたせ、実際に使える表現を児童が積極的に発話できる機会を増やす。 ・テストに慣れるために小テストなどを授業に取り入れる。 ・興味をもって話を聞けるよう、掲示物を生かしたり、ALTを活用したりする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・器械運動領域でどの学年も技能の高まりが見やすくなるように、場の工夫をしたりICT機器を活用したりして学習環境を整える。 ・技能向上への意識が弱い領域では、学習カードを充実させたり、規則や場の選択肢から選ばせたりして児童の積極性を高める。

②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・思いや考えを表現し、深めていく児童の育成を目指して、教材との出会いやICT機器の活用方法を工夫し、個別最適な学びや協働的な学びに重点を置いた授業づくりに取り組む。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・教員相互で指導法を伝え合うOJT研修で、タブレット端末、電子黒板等のICT機器の有効な活用方法について学び合い、授業改善に取り組む。

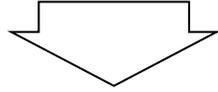
③家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・「自主学習」の取り組み方、様々な取組事例を紹介するなど、児童の主体的な学びが促進できるように、家庭との連携を図りながら、指導をしていく。

取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 12月末に個人面談において、学校での学習状況や学校生活の様子について、きめ細かく保護者へ伝える。
-----	--

④体力向上	
-------	--

取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> 児童の運動機会の確保に向け、「校庭遊び」の回数を増やすとともに、生活時程の見直しを図り、夏期はサマータイム制を導入して気温の低い朝に校庭遊びができるようにする。
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 学習の中で、他者の動きを見たり、助言したりし合う時間を設け、お互いに技術を高め合い、喜ばせるようにする。

【取組結果の検証】



学力向上に向けた視点	取組の成果	取組の課題及び解決策
①学力基盤		
②授業改善		
③家庭との連携		
④体力向上		